

株式会社仁張工作所 環境経営レポート 2023

期間：2022年12月21日～2023年12月20日



2024年3月31日発行

環境経営レポート目次

1. ご挨拶
 2. 会社概要
 - 2-1. 会社概要
 - 2-2. エコアクション対象範囲
 - 2-3. 経営理念・行動規範
 - ・ 品質方針
 3. 環境経営方針
 4. EA21推進組織及び役割・責任
 - ・ 権限
 5. 環境経営目標
 - 5-1. 環境経営目標
 - 5-2. 2023年度計画
 6. 2023年度達成状況
 - 6-1. 環境経営目標達成状況
 - 6-2. 結果と評価
 - 6-3. 総量実績推移
 7. マテリアルバランス
 8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反・訴訟の有無
 - 8-1. 法令遵守状況
 - 8-2. 違反・訴訟の有無
 - 8-3. 近隣よりの苦情の有無
 9. 2023年度の取組み
 - 9-1. 非常事態処理訓練
 10. その他の取組み
 - 10-1. 地域の清掃活動
 11. マネジメントレビュー
 - 11-1. 経営者による全体評価
 - 11-2. 次年度に向けて(アクション)
- あとがき

1. ご挨拶

当社は2000年に品質マネジメントシステムISO9002を認証取得し、環境マネジメントシステムについては、2003年度に環境省が実施したエコアクション21試行版によるパイロット企業として参画して以来、認証取得して21年目を迎えました。

現在は「品質活動と環境活動が重なり合った経営マネジメントシステム」として経営の有効なツールと認識し、生産活動を進めております。

国連が提唱する持続可能な開発目標(SDGs)と自らの環境経営との関連性を見だし、自社の事業活動と持続可能な社会づくりとのベクトル合わせができるように取り組みました。

ここに2023年度の環境経営活動の結果をまとめ、報告いたします。

代表取締役社長 仁張 茂₂

2. 会社概要

2-1 会社概要

1964年10月1日、東海道新幹線が開通した記念すべき日に産声を上げた仁張工作所は 2023年10月1日に創業59年目を迎えました。創業以来、弊社は主としてスチールやステンレスの薄鋼板を加工して各種保管庫、キャビネット、デスクなどを設計・製作するほか、幅広い用途を持つ箱物板金製品・各種精密板金製品を提供してきました。

現在では多業種・多業界における一次サプライヤーとしての板金加工部品供給を筆頭にOEM製品やオーダーメイド、オリジナル製品など多様な製品を提供し続けています。ご興味のある方は下記HPもご覧ください。 URL <https://nimbari.co.jp/>



2. 会社概要

2-2 エコアクション対象範囲

事業所名 株式会社仁張工作所

URL <https://nimbari.co.jp/>

エコアクション21の対象範囲と所在地(2023年3月現在)

◎ 本社工場 〒578-0921 大阪府東大阪市水走3丁目14番6号

◎ 仕上棟・仕上第二棟 〒578-0921 大阪府東大阪市水走3丁目8番26号

社員数 81名 売上高 1,648百万円

環境経営活動担当者の連絡先

環境管理責任者 仁張 茂 事務局 総務経理部

連絡先 Tel : 072 - 962 - 2831 Fax : 072 - 963 - 4183

E-mail sakamoto@nimbari.co.jp

事業活動（認証・登録範囲）

精密板金加工製品、別注スチール製家具・什器、箱物板金加工製品の製造
（「環境経営レポート2023」についての問合せは事務局までご連絡ください）

2. 会社概要

2-3 経営理念・行動規範・品質方針

経営理念

1. 私たちは板金加工を通じて、ものづくり、仕事づくり、ひとづくりに努力します
2. 私たちはお客様の満足を通じて仕事に誇りを持ち よりよい生活を実現し
働きがいのある会社づくりに努力します
3. 私たちは常に新しい板金加工技術について積極的に学び 自分たちのものとし
共有化することによって 技術レベルの高い信頼される会社を目指します

行動規範

1. 規律正しく行動し、仕事に対して誠実になろう
2. 決められた事を守り、妥協しないプロ集団になろう
3. 社員は仲間 相手の考えを受け止め、自分の考えを入れこみ“私たち”の考えをつくろう

品質方針

「品質に責任を持ち、顧客の信頼に応える」

3. 環境経営方針

作成日：2003年10月1日

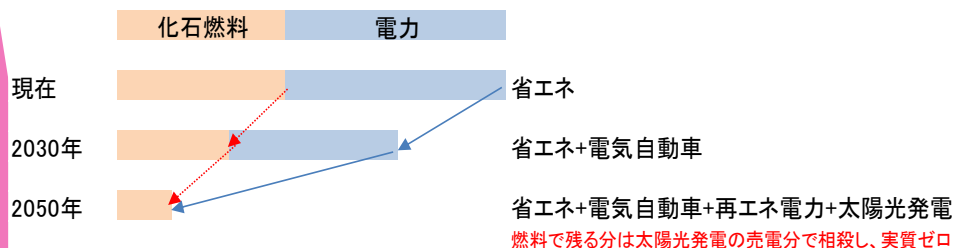


私たち株式会社仁張工作所は 経営理念に基づき 板金加工製品のモノづくり事業を遂行するにあたり 環境影響をとらえ 社員の育成と成長を通じて 自然資源を維持する ‘地球にやさしい’ 取組みを展開します

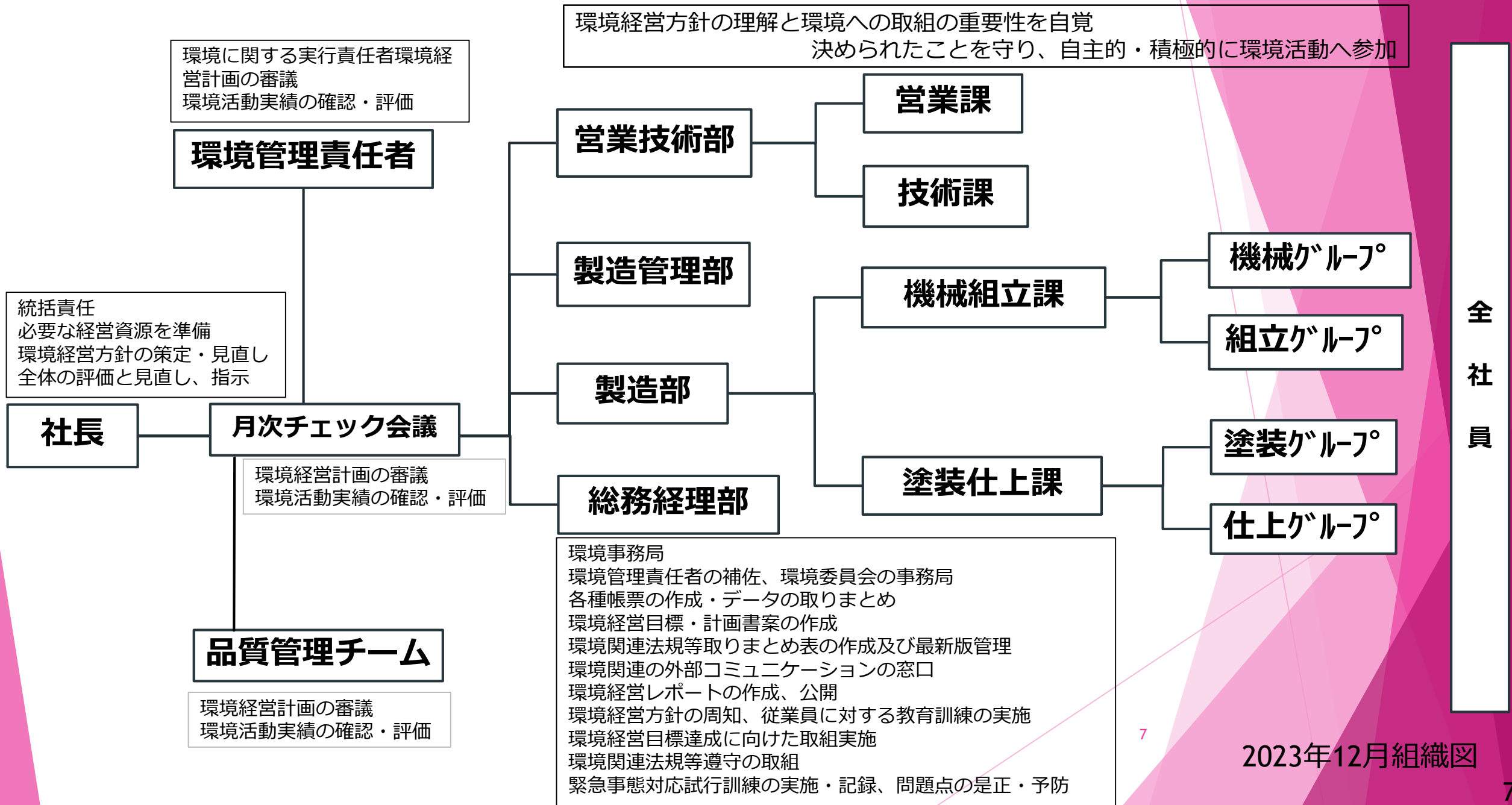
1. 現在及び将来の事業活動において 環境経営目標を定め 技術的 経済的に可能な範囲で継続的改善に努めます
2. 品質を良くすることは環境につながることを理解し、生産性向上によるエネルギーの有効活用と共に 二酸化炭素排出量の削減、廃棄物排出量の削減、排水量の削減、化学物質の削減と適正管理に努めます。
3. 働き方を改善することで、生産性向上に努め、当社の企業価値を発信します。
4. 適用される環境関連法規及び当社が個別に同意した要求事項を遵守します。
5. 環境経営方針を教育・啓発活動を通じて全社員に周知すると共に、地域社会や行政、取引先・外部委託業者などにも情報を開示し良好なパートナーシップを維持することで理解と協力を求め、環境に関する意識の向上を図ります。

2022年12月21日改訂 代表取締役 仁張茂

カーボンニュートラルに向けた取組



4. EA21推進組織及び役割・責任・権限



5. 環境負荷の実績と目標



5-1 主な環境負荷の実績

項 目	単位	2021年度	原単位 /百万円	2022年度	原単位 /百万円	2023年度	原単位 /百万円
二酸化炭素排出量	kg-CO2	718,345	402.21	529,205	312.69	532,720	323.18
一般産業廃棄物	kg	18,795	10.52	5,891	3.48	3,338	2.03
廃油 & 汚泥(特管)	kg	19,050	10.67	21,400	12.64	27,160	16.48
水道水使用量	m³	4,392	2.46	2,621	1.55	2,695	1.63

※電力のCO₂換算係数 0.379kg- CO₂ /kWh(関西電力R2)

※原単位は生産高100万円当たり

5. 環境負荷の実績と目標



5-2-1 環境経営目標（原単位数値）とその実績
※毎年の目標は、前年度実績の 2～5 %とします。

原単位は生産高100万円あたり

方針 番号	番号	方針項目	目標項目	単位	2022年度実績 （基準値）	2023年度 目標	備考	2023年度 実績	達成状 況	2024年度 原単位目標
2	E-1	二酸化炭素排出量の削減	電力使用量	kWh/百万円	537.55	521.42	-3%	529.41	×	513.52
			LPG使用量	m³/百万円	12.15	11.78	-3%	13.83	×	13.42
			都市ガス使用量	m³/百万円	6.82	6.68	-2%	7.44	×	7.29
			灯油使用量	L/百万円	1.15	1.12	-3%	1.11	○	1.07
			ガソリン使用量	L/百万円	2.03	1.99	-2%	2.42	×	2.37
			軽油使用量	L/百万円	4.00	3.92	-2%	4.35	×	4.27
			二酸化炭素排出量	kg-CO2/百万円	312.69	296.30	-5%	323.18	×	306.24
	E-2	廃棄物排出量の削減	産業廃棄物	kg/百万円	3.48	3.31	-5%	2.03	○	1.92
			廃油&汚泥	kg/百万円	12.64	12.01	-5%	16.48	×	15.65
	E-3	排水量の削減	水道水使用量	m³/百万円	1.55	1.47	-5%	1.63	○	1.55
3	E-4	化学物質の削減と適正管理	シンナー購入量	kg/百万円	7.65	7.42	-3%	7.83	○	7.59
			粉体塗料使用量	使用比率%	25.9%	26.7%	3%	32.1%	○	33.1%
	E-5	企業価値の発進	一人当たり付加価値額	%	100.00	100%以上		109%	○	2023年度実績以上

5. 環境負荷の実績と目標



5-2-2 環境経営目標（総量数値）とその実績

			総量実績(原単位実績)						
方針項目	目標項目	単位	2021年度	原単位 /百万円	2022年度	原単位 /百万円	2023年度	原単位 /百万円	2024年度 総量目標
二酸化炭素排出量の削減	電力使用量	kWh	1,346,539	753.94	909,769	537.55	872,668	529.41	846487.96
	LPG使用量	m³	23,326	13.06	20,559	12.15	22,801	13.83	22116.97
	都市ガス使用量	m³	12,316	6.90	11,536	6.82	12,268	7.44	12022.64
	灯油使用量	L	1,162	0.65	1,953	1.15	1,822	1.11	1767.34
	ガソリン使用量	L	3,495	1.96	3,437	2.03	3,982	2.42	3902.28
	軽油使用量	L	9,195	5.15	6,773	4.00	7,177	4.35	7033.42
	二酸化炭素排出量	kg-CO2	718,345	402.21	529,205	312.69	532,720	323.18	504794.41
廃棄物排出量の削減	産業廃棄物	kg	18,795	10.52	5,891	3.48	3,338	2.03	3171.10
	廃油&污泥	kg	19,050	10.67	21,400	12.64	27,160	16.48	25802.00
排水量の削減	水道水使用量	m³	4,392	2.46	2,621	1.55	2,695	1.63	2560.25
化学物質の削減と適正管理	シンナー購入量	kg	13,840	7.75	12,944	7.65	12,901	7.83	12513.97
	粉体塗料使用量	使用比率%	29.7%	—	25.9%	—	32.1%	—	33%
企業価値の発進	一人当たり付加価値額	%	—	—	100%	—	109%	—	2023年度実績 以上

売上高百万円		
1,786	1,692	1,648

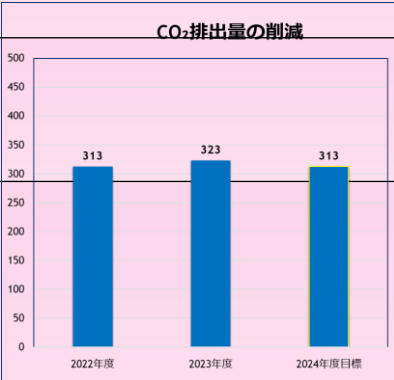
5. 環境負荷の実績と目標



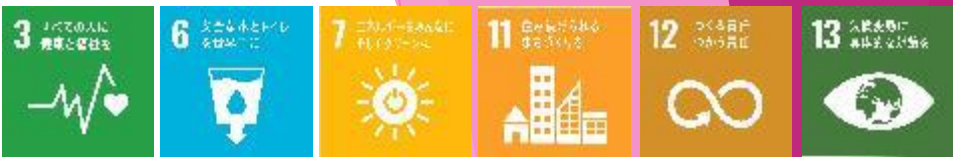
5-3 環境計画の取組結果とその評価、次年度の計画

活動：○よくできた △あまりできなかった ×全くできなかった

番号	方針項目	目標項目	主な取り組み(目標達成手段)	達成状況	実行部署
E-1	二酸化炭素排出量の削減	電力使用量	不要照明の消灯による電力削減・工場内LED 働き方見直しによる残業時間の短縮	○	総務
		LPG使用量	塗装の作業改善、品質改善で社内生産でのLPG削減	○	全部署
		都市ガス使用量	クールビズ・ウォームビズを実施し冷暖房用燃料の削減	○	塗装G
		灯油使用量		○	全部署
		ガソリン使用量	物流の効率化で車燃料削減	○	機械組立
		軽油使用量		△	全部署
				△	全部署
	取り組みの評価	電力使用量	数値目標＝使用量、排出量ともに達成出来たが、原単位評価では達成できなかった。 要因は外注比率が2%減、内製が増えたことによるが、排出係数"0"の電力も検討すべき。 また、前年比-3%の設定を再考する。		
		LPG使用量	数値目標＝未達成。 外注比率が2%減、内製が増えたことによる増加。前年比-3%の設定を再考する。		
		都市ガス使用量	数値目標＝未達成。 要因は、ヤンマーラインの移設による空調機の使用増加。 前年比-3%の設定を再考する。		
		灯油使用量	数値目標＝目標達成。 営業時間の短縮や、リスクリングによる効率化で残業時間が削減でき、使用量の削減につながったと思います。		
		ガソリン使用量	数値目標＝未達成。		
		軽油使用量	要因は、自社による設置の増加による。 今後も自社設置は増加していくため、目標の再考が必要。		
	CO2 ₂ 排出量総量は 若干増加してしまいました。 また、原単位目標値も増加してしまいました。 外注比率の減少により、内製が増加しました。昨年度より使用量は減少しましたが目標には届きませんでした。 来年度は、目標値の見直しやゼロカーボン電気の検討をはじめて行きたいと思います。				



5. 環境負荷の実績と目標



5-3 環境計画の取組結果とその評価、次年度の計画

活動：○よくできた △あまりできなかった ×全くできなかった

原単位は生産高100万円あたり

番号	方針項目	目標項目	主な取り組み(目標達成手段)	達成状況	実行部署	
E-2	廃棄物排出量の削減	産業廃棄物	社内3Sと分別の徹底	○	全部署	
		廃油 & 汚泥	塗装の品質及び生産改善により引火性廃油及び汚泥の排出削減	△	塗装G	
	取り組みの評価	産業廃棄物	数値目標＝達成。 ヤンマーライン移設のイレギュラーはあったが、社内の3Sが進んだことで廃棄が減少した。			
		廃油 & 汚泥	数値目標＝未達成。 外注比率が2%減、内製が増えたことにより増加した。			
	昨年に引き続き、木材パレットの廃棄を”0 “に出来た こと、社内の 3S が進み、 ビニール系 産業廃棄物を意識 して削 減することが できました。 来年度も、全体朝礼での発信等を活用しさらに分別意識を定着させることに取組みます。					
E-3	排水量の削減	水道水使用量	給水設備点検を行い、水漏れを防止して一般水使用量削減	○	総務	
	取り組みの評価	水道水使用量	数値目標＝未達成。10～12月の受注量に比例して増加。目標値の再考が必要。			
	ほぼ、昨年同様の数値でした。 原単位目標1.4 m ³ に対し 1.6 m ³ と若干の増加と となりました。 次年度も特に本社の使用量 推移を監視し、ムダやロスの削減に取組みます。					

5. 環境負荷の実績と目標

5-3 環境計画の取組結果とその評価、次年度の計画

活動：○よくできた △あまりできなかった ×全くできなかった

番号	方針項目	目標項目	主な取り組み(目標達成手段)	達成状況	実行部署	
E-4	化学物質の削減と適正管理	シンナー購入量	前処理ラインの利用でシンナー拭きを減らす	○	塗装G	
			作業ミスによる使用量増加の抑制	○	塗装G	
			季節により使用するシンナーを変えることで揮発を抑制する	○	塗装G	
		粉体塗料使用量	粉体塗装適用製品を広げ VOC を削減する	○	塗装G	
	取り組みの評価	シンナー購入量	数値目標＝未達成。 昨年度に比べ購入量は削減できたが、原単位評価は未達成となった。			
		粉体塗料使用量	数値目標＝達成。顧客要求の変化により、粉体塗装比率が向上した。			
	シンナー購入量を削減 購入量は昨年度より削減できましたが、原単位目標は達成できませんでした。 来年度は作業の見直しを実施することで、削減のポイントをつかみたいと思います。					
	粉体塗料 塗装 使用量の変化 粉体塗装への切り替えを実施頂いたお客様があり、使用比率を上げることができ、 原単位目標も達成できました。 今後も、粉体塗装への移行提案商品の検討を続けます。					

シンナー購入量

年次	購入量
2022年	12,944
2023年度	12,901
2024年度目標	12,578

粉体使用率

年次	使用率
2022年度	25.9
2023年度	32.1
2024年度目標	33

5. 環境負荷の実績と目標

5-3 環境計画の取組結果とその評価、次年度の計画

活動：○よくできた △あまりできなかった ×全くできなかった

番号	方針項目	目標項目	主な取り組み(目標達成手段)	達成状況	実行部署
E-5	企業価値の発進	一人当たり付加価値額	時間有給制度の導入	○	全部署
			時短営業	○	全部署
			就労時間の見直し	○	総務
			環境経営レポートの社内外への発信	○	総務
			リスクリングの推進	○	全部署
			付加価値額の監視	○	総務
			新年度より、時間有給制度の導入を実施しました。 4月までは、雇用調整助成金の活用があり、なかなか利用することができませんでしたが、5月以降は少しずつ理解も進み利用者も増えてきました。 6月度からは、定時を17時から16時に変更して時短営業の実験を開始しました。 付加価値額は昨年とほぼ同等の水準で推移し、最終的に、昨年度より9%の増加となりました。 時間短縮やリスクリングで作業効率を意識できたことが大きな要因だと思います。		

7. マテリアルバランス

インプット

エネルギー	
・ 電力	872,668 kWh
・ LPG	22,801 m ³
・ 都市ガス	12,268 m ³
・ 灯油	1,822 l
・ ガソリン	3,982 l
・ 軽油	7,177 l
金属材料	
・ 鉄板	1,407,405 kg
・ ステンレス板	41,205 kg
・ アルミ板	126 kg
化学物質	
・ 溶剤塗料	20,557 kg
・ 粉体塗料	9,735 kg
・ シンナー	12,901 l
水	
・ 上水道	2,695 m ³

事業活動

営業

設計・開発

工程計画
資材調達

製造

物流

出荷

アウトプット

二酸化炭素排出量	532,720 kg-CO ₂
リサイクル	
・ スクラップ(鉄)	418,160 kg
・ スクラップ(ステン)	27,020 kg
・ スクラップ(アルミ)	1,271 kg
・ 引火性廃油・汚泥	26,600 kg
廃棄物排出	
産業廃棄物は、廃プラ・混合等の合計	
・ 産業廃棄物	3,338 kg
・ 木くず	0 kg
・ 一般事業ゴミ	
水	
・ 排水	2,695 m ³

8. 環境関連法規等の法令遵守の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無

8-1 法令遵守状況

適応法令(条例)	該当する項目	遵守状況
廃棄物処理法	保管・委託の適正管理 特別産業廃棄物管理責任者設置 産業廃棄物管理票交付等状況報告書提出	適合
大阪府流入車規制条例	トラック	適合
フロン排出抑制法	廃棄時の適正処理 簡易点検、定期点検	適合
下水道法	水質測定	適合
悪臭防止法	トルエン及びキシレンの使用	適合
騒音規制法 振動規制法	ターレットパンチプレス、プレスブレーキ、レーザー複合機、シャーリングマシン、エアーコンプレッサー、窒素発生装置、クーリングタワー	適合
PRTR法	塗料溶剤	適合
顧客要求事項	環境に配慮した製品設計・部材調達RoHS、REACH対応。 有害化学物質含有量の少ない部材調達、供給者ネットワーク確立。顧客からの調査依頼対応	適合

※2023年11月内部監査にて遵守状況確認済

8. 環境関連法規等の法令遵守の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無

8-2 違法・訴訟の有無

違法・訴訟はありませんでした

8-3 近隣からの苦情の有無

特にありませんでした。

9. 2023年度の取組み

9-1 非常事態処理訓練(2023年11月14日)

塗装ブースの循環水流出を想定して、
緊急事態処理手順書に基づき応急処置
訓練を実施しました



手順書通り実施し、流出防止処置の
確認が出来ました。
※なお、今回の訓練による手順書見直しや
変更の必要ありませんでした。

10. その他の取組み

10-1 地域の清掃活動(2023年6月9日)



環境月間の活動として、
毎年恩智川沿いの道の
清掃活動を行っています



11. マネジメントレビュー

11-1 経営者による全体評価

2023年度は、有効活用できていなかった営業棟の解体しテント倉庫を新築することで賃貸の菱江第二倉庫を返却、また営業技術室をワンフロアにし、管理部門（営業・技術・製造管理）を本社3F集約するなどコンパクトで、風通しのよい環境作りに取り組んだ1年でした。

鋼材や資材等の高騰により売上は前年比約2.7%のダウンとなりましたが、労働時間短縮の試運転・時間有給制度の活用・リスクリング（マルチスキル化）、ムダを排除した”集約型“の”ものづくり“を実践することで前年比約12%プラスの利益を確保できました。

昨年度は社外に依頼していたY o u T u b e作成を内製することで、経費を削減しつつ、より早く・思いを込めて、当社製品の魅力を発信できるようになり、受注へと繋がっています。

品質も改善の方向に進んでおり、「品質と環境が結びついたECOなものづくり」が継続出来ていると感じています。

2023年11月エコアクション21更新審査の結果は適合評価でした。

総合コメントではリスクリングによる生産性の向上、リフォーム等による作業環境改善が評価されました。また、次年度以降の排出係数“0”の電力調達についてアドバイスを頂きました。

11. マネジメントレビュー

11-2 次年度に向けて(アクション)

- ・ 環境経営方針、エコアクション21更新審査の改善事項に基づき変更しますが、実施体制は変更しません。
目標設定は、総量と原単位の2本立て（前年度基準）とします。
- ・ 次年度は、所定内労働時間の短縮を実行し、効率的な働き方でライフ・ワークバランスをさらに実現させ、仕事のパフォーマンス向上を目指します。
- ・ 一人ひとりが今までの仕事だけでなく、他の仕事も出来るようにスキルアップしていく（リスキリング）中で、お互いを思いやることのできる環境を作り、SDGsに繋がっていきたいと思います。

以 上

あとがき

2023年度環境経営レポートを最後までお読みいただきありがとうございます。

売上の減少・雇用調整助成金の終了・物価上昇など厳しい状況のなか、工場内のLED化・部署の集約・労働時間の短縮・時間有給制度の導入など、コンパクトで風通しのよい職場環境作りに取り組んだ1年でした。

毎週月曜日に全社員を集めて実施する全体朝礼では、社長から直接伝えられる会社の現状・仁張工作所としての考え方や思いが、社員一人ひとりに浸透しています。

繰り返し伝えられる思いやりの心を、社内だけでなく社会やSDGsにも繋げていきたいと思います。

環境事務局 坂本知加恵
仁張 茂(環境管理責任者)
初版発行 2024.3.31